

Market Flash

発表日: 2020年4月21日(火)

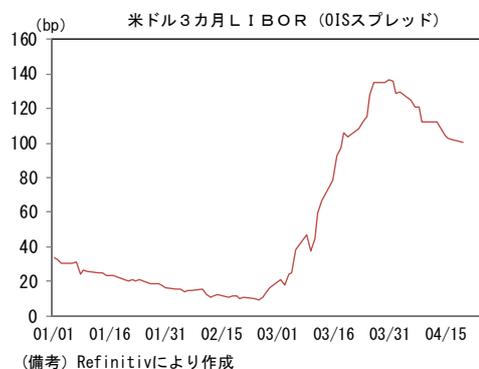
- ・忘れかけていた5G
- ・意外なルートで特需も

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均の20,000円定着には、6ヶ月程度の時間を要するだろう。
- ・USD/JPYは、先行き12ヶ月105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・FEDはゼロ金利政策下で資産購入を継続するだろう。

< #原油価格 #5G #意外なルート >

- ・前日の米国株は下落。WT I原油の急落を受けてエネルギーセクター主導で下落。WT I原油は5月限の最終取引を控え、現物の受け渡しを回避するための投げ売りが発生。史上初のマイナスを記録した。NYダウは▲2.4%、NASDAQは▲1.8%。VIXは43.8へと上昇。
- ・米金利カーブはブル・フラット。10年は0.605% (▲3.0bp)、30年は1.216% (▲4.4bp) で引け。短期金融市場ではドルLIBOR (OISスプレッド) の低下が継続。ドル流動性の回復を確認。USD/JPYは一時107半ばから後半で一進一退。商品はまちまち。WT I原油 (5月限) は▲37.6ドル (▲55.9ドル) へと下落。原油貯蔵施設のキャパシティ限界に伴う保管コスト上昇によって受け渡し前の投げ売りが発生。他方、6月限は20ドル台を維持した。金は1701.6ドル (+12.4ドル) へと上昇。銅は5183.5ドル (▲27.5ドル) へと下落。原油価格下落が世界経済の弱さを浮き彫りにした反面、銅価格は小幅な下落に留まり世界経済の粘り強さを映じた。クレジット市場はIG債 (投資適格)、HY債 (投機的格付) が共に軟調。なおHY債の下落は、WT I原油6月限の底割れ回避もあって限定的であった。



- ・さて、BC (before corona) における2020年のメインテーマは5G本格稼働が喚起する世界経済の加速であった。IoT、AIといった有望なテーマの進化と相まって、基地局や5G対応製品の投入など多くのIT関連財の需要増加が予想されていた。
- ・こうしたテーマは新型コロナウイルス問題によって存在感が薄れているものの、少なくとも2月までのデータのみを限り生存が確認されている。世界半導体売上高は前年比+5.0%へとプラス圏に浮上し、日本の生産統計ではIC (集積回路)、半導体製造装置が力強く伸び、IT関連財の輸出も底堅く推移している。
- ・目下の世界経済の急減速を踏まえると、こうした回復傾向の持続性は微妙に思えるが、現時点で5Gの本格稼働を含めBC時点の計画が撤回されたわけではない。短期的にはサプライチェーン寸断によって生産が落ち込む可能性はあるとしても、やや長い目でみれば、半導体を中心にIT関連財の需要は底堅く推移する可能性があるだろう。
- ・世界経済の大幅マイナス成長が予想されている中でIT関連財の回復継続を見込むのは楽観的に思えるかもしれないが、財消費を巡る環境がサービス業ほど悪くはないことも認識しておきたい。人々の外出が制限 (自粛) されている以上、サービス消費が落ち込むのは自明であるが、一方で消費者はECを活用して自宅から財にアクセスできるし、生産者側も一部の例外を除いて (需要さえあれば) 生産を継続している。
- ・AC (after corona) に予想される姿としてBCの先進国経済のメガトレンドであった「モノ消費からコト消費」からの逆回転が考えられる。新型コロナウイルス問題の完全終息に相応の時間を要すると考えた場合、本来は外食、旅行、レジャー等に向かっていたはずのお金が在宅時の余暇を満喫するための高機能スマホやタブレットなどIT製品に向かう可能性があるだろう。世界的な雇用環境悪化に鑑みれば民生デバイス市場の減速は不可避に思えるものの、上記のようなトレンド変化の下で「特需」が発生する可能性も意識しておきたい。また企業や国家レベルにおいてもテレワークの推進などIT関連の実物投資が盛んになる機運も高まっており、既にノートPCやデータセンターの能力増強といった需要も発現している模様。コロナショックで忘れかけていた5G特需は、意外なルートを通じて実現する可能性がある。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

